

データ活用等のデジタル化の推進による社会課題・地域課題解決のための実証型研究開発

画像解析による種鶏・原種鶏の初生雛雌雄選別の実証型研究

研究概要：1924年に日本人解剖学者 増井清氏によって発見された「肛門雌雄鑑別法」は、オスのヒナにだけみられる退化した生殖器を目視で見分ける。訓練と経験を積んだ「初生雛雌雄鑑別師」によって普及し、世界の養鶏産業を発展させてきた。昨今「初生雛雌雄鑑別師」の高齢化が進み、全国的に不足している。熊本県農業研究センターが保有する原種鶏「天草大王」、「九州ロード」の2鶏種において、98%の精度でリアルタイムに雌雄判定する肛門鑑別AIの実証実験を2024年に行う。

【大正】100年前

「肛門雌雄鑑別法」発見

【平成】

肉質の良い地鶏ブーム
公設試で独自鶏種を開発



鑑別師による雌雄判定

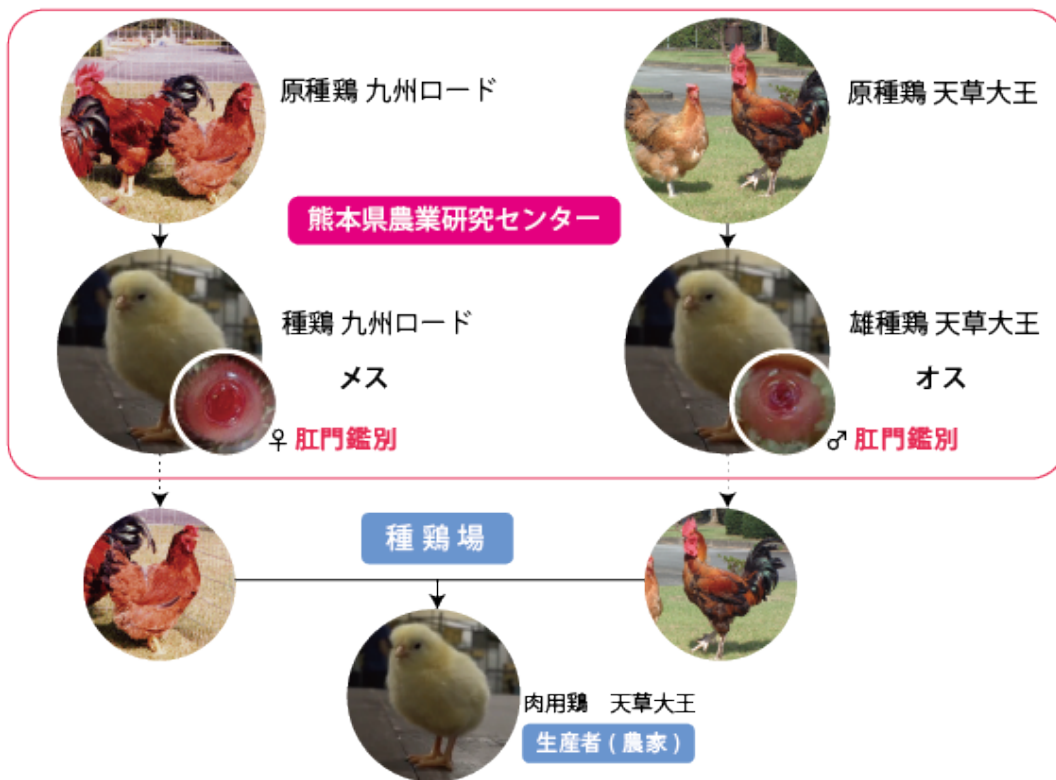
98%以上正解

【令和】

鑑別師が次第に不足
種鶏が供給できない



地鶏の生産ができない
全国的な社会課題



事前研究 (2021)

PoC 判定精度 (九州ロード)

92.5% 正解



実証型研究開発

目標 98% 正解

- ・ AIツールの改善
- ・ カメラの改善
- ・ 最適な AI学習

リアルタイム判定

【研究開発期間】 令和4年度から令和6年度まで

【受託者】 有限会社電マーク (代表研究者)、熊本県農業研究センター、国立大学法人広島大学、歯っぴー株式会社